

# 特別支援教育地域研修並びに

## 第2回特別支援教育コーディネーター連絡協議会報告



8月5日、10日、11日、12日、大阪市内を東西南北の4つのブロックごとに、特別支援教育地域研修並びに第2回特別支援教育コーディネーター連絡協議会を中央高等学校、咲くやこの花中学校・高等学校、西高等学校、工芸高等学校の各校を会場に開催いたしました。

第1部は、ブロック全体での地域研修、第2部は各教室に分かれて、区ごとに特別支援教育コーディネーター連絡協議会を行いました。



### 第1部

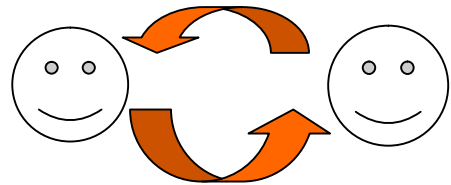
第1部は「気になる子どもの理解のために～子どもはどこでつまずくか」というテーマで、お二人の先生からお話していただきました。

まず西淀川特別支援学校の古沢先生から「コミュニケーションの発達と障害の重い子どものつまずき」についてお話いただき、コミュニケーションの基本について研修しました。

#### 1. コミュニケーションとは

##### 1) コミュニケーションの機能

- ・意思の伝達をすること（双方向であること）
- ・気持ちや感情を共有すること



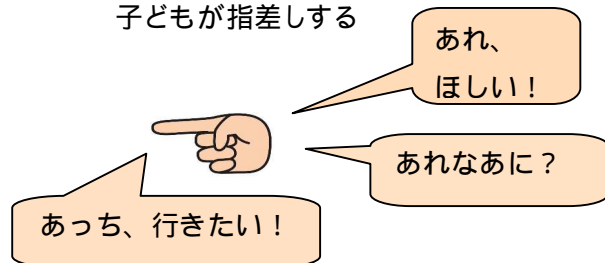
##### 2) コミュニケーションに何らかの問題があるとき

- ・子ども自身の問題、相手である大人の問題、媒体の問題を考える
- ・伝えたい、共有したいこととその方法の工夫

#### 2. コミュニケーションの大切な観点の一例

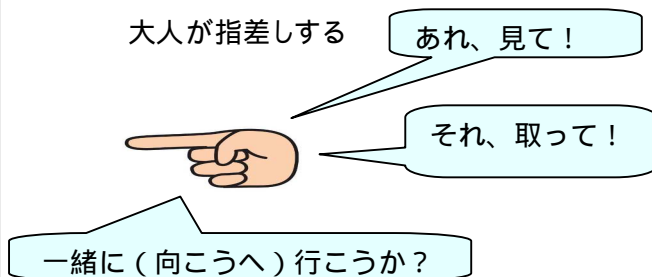
##### < 対象を共有できているか？ >

子どもが指差しする



- ・大人が子どもの指差したものをわかっているか？
- ・大人が子どもの指差した意味をわかっているか？

大人が指差しする

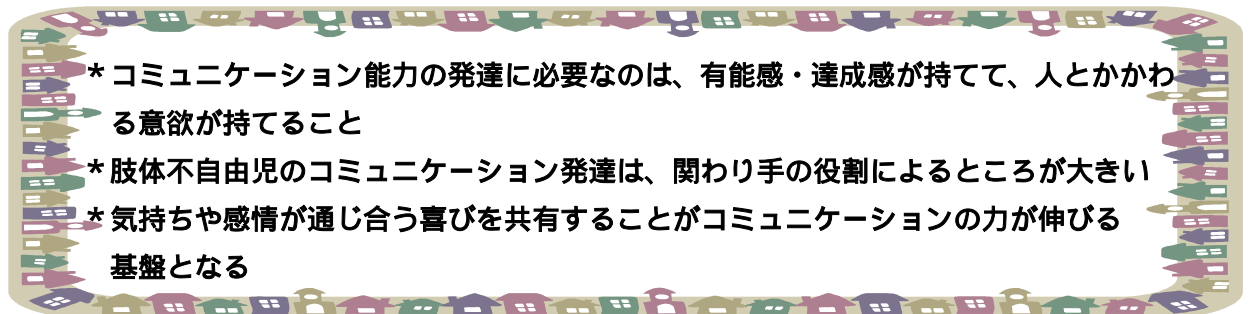


- ・子どもが大人の指差した方向を見ているか？
- ・子どもが大人の指差したものをわかっているか？
- ・子どもが大人の指差した意味をわかっているか？

また、子どもへの視覚支援としてカードを使う場合、なぜ、そのカードが示されたのかが分からなければせっかくの視覚支援が支援でなくなります。視覚支援をする前に、大人(支援者)が子どものコミュニケーションの発達段階をきちんと把握し、それをふまえて支援していくことがよりよいコミュニケーションの指導につながるということでした。

さらに重度な肢体不自由のある子どもについての話を中心に、運動発達に障害があると機能的な問題だけではなく、どういつまずきが起こりがちになるかをお話していただきました。

そして最後に、次のようにまとめていただきました。



続いて住之江特別支援学校の富田先生から、日頃知的障害・発達障害のある子どもたちと関わりあう中から、具体例を挙げたお話をしていただきました。

#### 子どものつまずきについて

- ・学習上のつまずき ~ 音読がたどたどしい、筆算の桁がずれる
- ・行動上のつまずき ~ 授業中、席を離れて立ち歩く
- ・社会性でのつまずき ~ 他者の気持ちがわかりにくく、周囲に合わせられない

#### < 子どもと環境の相互作用から >

##### 1. 子どもの行動を見るとき

- ・その行動が起こったときに、私たちは何をしたか?
- ・「どんな時」に 「どんな行動」をし、 「どうなった」のか

##### 2. その行動が続くのには訳がある

- ・ 障害のために行動が続いているのではなく、別の理由があると考えれば、新たな関わりを始められる



#### < コミュニケーションの役割 >

##### \* 子どもの行動が周囲とのコミュニケーションの役割を果たしている

- ・場面回避 ~ テストになると教室を飛び出す テスト問題が分からない等
- ・要求 ~ 音楽をかけてもらうまで泣き続ける 音楽をかけてほしいと伝えられない等
- ・注意獲得 ~ 先生の机の物を取って逃げていく 先生に関わってほしい等

子どものつまずきと発達や認知の特性等の関連をきちんと把握することが大切である。そのためには、実態把握(アセスメント)が大切であると触れられたあと、新版K式発達検査 2001 との関連によって事例を説明されました。その一つを紹介します。

事例

< 自分のことばで友だちが傷ついても気づかないA君 >

発達検査からわかること

- ・ 「表情理解」の問題に弱い

ここから考えられること → 友だちがいやな顔をしているのがわからない

- ・ 「了解」の問題に弱い

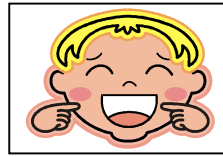
ここから考えられること → 状況に応じてどうしたらいいのかがわからない

- ・ 「語の差異」「語の類似」等の言語問題に弱い

ここから考えられること → 場合った言葉をうまく使えていない

考えられる支援

- ・ 表情カード（簡素化したもの）の理解
- ・ 「いい言葉」「いやな言葉」分類



- ・ 教室に常に掲示して、クラス全員で「いい言葉」を使うことを目標にする

新版K式発達検査 2001 の検査項目



8月5日(木) 中央高等学校にて



8月10日(火) 咲くやこの花中学校・高等学校にて



8月11日(水) 西高等学校にて



8月12日(木) 工芸高等学校にて

## 第2部

第2部では、各区の家庭児童相談員さんと顔を合わせて情報交換等を行いました。

### 【家庭児童相談員とは】

家庭児童相談員さんは各区の保健福祉センター（子育て支援室）におられます。

相談としては、家庭における子育てに関することや、子どもを取り巻く家庭の人間関係、その他子どもの福祉に関わることについて相談援助を行います。また、必要に応じて子ども相談センター、保育所、幼稚園、学校、医療機関、その他子どもに関する関係機関との連携を図り、適切な支援を図っておられます。今回の連絡協議会は、まさしくその連携を図るための一助になるとのご意見をいただきました。

相談対象は、大阪市内に在住している18歳未満の児童及びその保護者等です。

相談の経路としては、1歳6か月児・3歳児健診後の発達相談、保育所・幼稚園・学校からの紹介、保護者が広報等をご覧になって直接来られる、といったケースがあげられます。

各区に分かれての連絡協議会では、家庭児童相談員さんを囲んで様々な情報交換が行われました。すでに連携を取られている学校園の先生方にとっては心強い身近な存在なのですが、今回の連絡協議会で初めて家庭児童相談員さんの存在を知った先生方も多く、連携の事例についてお話しいただいたことで、会の終了後に早速相談を持ちかけている先生も少なからずいらっしゃいました。

家庭児童相談員さんから、学校の先生方との意見交換が持てたことで「学校の様子や先生方の困っていることがよくわかりました。これを機会に相互に連携できることを期待しています」という意見をたくさんいただきました。

顔の見える連携が、次の支援につながっていくためにも、この連携のネットワークを広げていきたいものです。

#### 学校園が連携できる他機関とは...

特別支援教育推進ルーム

大阪市教育センター

発達障害支援巡回相談

教育委員会指導部

通級指導教室

特別支援学校

子ども相談センター

大阪市

子育て支援室

区保健福祉センター

エールおおさか

他

次回の各区特別支援教育コーディネーター連絡協議会は、来年1～2月にかけて行う予定です。テーマは「学校間連携」です。